

道祖神祭り 取材感想

取材 ● 感想

佐藤麻鈴

男根の形をしたご神体は、私の想像を超える立派さでそびえ立っており、そこに鎮座しておりました。神の上に乗るなど恐れ多きことですが、足をゆつくりと持ち上げ腰を置くとずつしりとした硬さが太ももに響き渡ります。これが神かと、息を飲んだ瞬間、神と私は揺さぶられ、これが一体になることかと天にも召す思いに浸ったことを今でも鮮明に思い出せます。あの瞬間にこそ、神はいるのだと、私は深く実感したのです。

私は、神の存在を体で感じる前に疑問に思っていたことがあります。ご神体は男根の形を成していますが、そのモデルは一体誰なのか、と。もちろん、神であることには間違いないのです。その男根の持ち主を知りたい。私はそう強く感じていました。そうして、祭り主催の方々にお話を伺いました。しかし、そんな簡単に判明するはずもなく時間だけが過ぎ去っていきまし

た。未だに、ご神体のモデルについては謎のままでいるのです。

ですが、今回の取材を通して、私は一つの仮説を立てました。ご神体は男性器の形であり、それ以上もそれ以下でもないのだと。誰をモデルにしたでもなく、性の象徴、または子孫繁栄の象徴、それを求めたゆえの男根型ご神体であるのではないかと、そう思うのです。男性器の形が普遍的なものであるように、誰のモノでもなく、男性器のそのものが必要であつたのだと、強く感じました。

取材 ● 感想

林日倩

今回の感想を一言でいうと「すごい揺れた」です。

このお祭りは女性の方なら御神体に乗ることが出来たので、乗ってきました。

午前中は御神体を収めている神社を見きました。お祭りの屋台の準備をやっている方たちがいいて、観光客らしき人もちらちらいたが、

少なかったです。

夜になって、ホテルで待つと御神体をやってきましたが、待ちきれなくてご飯を食べ終わってすぐに御神体を探しにお祭り会場に行きました。すると道中で御神体をついだ集団と出会いました！ 集団です！ 後ろにぞろぞろとお祭りに参加する人がくっついていました！

私も続こうかなと思いましたが、まだお祭り会場でキノコ汁をもらっていないと思い、泣く泣くお祭り会場に向かいました。午前中と比べ人が多かったが、それでもだんだんと人が減ってきて、みんなどこに行つたのだろうと探してみたら、少し離れた広場にいたんです。そこで太鼓の演奏を見て、つ、ついに御神体に乗りました！ ぱちぱち。人が乗っているのを見たときはどうしてそんなに大げさに揺れているように見えるんだろうとひねくれて見ていましたが、実際、乗ってみると、あら不思議、すごい揺れた!! いえ、大げさではありません！ 本当にすごく揺れたんです！ アンビリバーボーです。



もし興味があつて、一度このお祭りに行こうとする女性の方がいれば、ぜひ乗ってみてください！ 子宝飴がもらえます。飴ですよ。

取材 ● 感想

佐野圭祐

私は、このPLUS!編集部に入るまで取材というものをしたことがなく、人生で初めての経験でした。知らない地で知らない人に話を聞く、私にとっては少しハードルが高いように感じましたが、終わってみれば楽しかったなと思っています。

道祖神祭りについては、取材するとなるまではその存在を知りませんでした。個人的に色々と下調べをしていったのですが、調べたものを実際に見たものとは違う感じでした。百聞は一見にしかずとはまさにこのことかと思わされるようなものでした。というのも、お祭りといえば神様を祀っているわけですし、神々しいものというイメージでしたが、写真の通りご神体は…

取材する中で、華やかなお祭りと大変な舞台裏、美ヶ原温泉そのものが抱える問題点なども見えました。

いざ、お祭りが始まり、ご神体が町を回りますが、その担ぎ手はこの土地の人ではないのです。この地域では年々若者が減っていて、ご神体の担ぎ手も減ってしまっているのです。なので、毎年県外などから学生を集めてご神体を担いでもらっているそうです。

地方のお祭りとしては知名度も盛り上がりも大きいと思いますが、やはり地方ならではの問題も垣間見えました。しかしお祭りの盛り上がりはとても良く、私自身もしっかりと楽しませてもらいました。私の書いた記事もぜひとも読んでください。

取材 ● 感想

長野和正

小学生以来乗っていなかった特急列車に乗るということもあつてか少し神奈川から離れた長野県に行くだけだというのにやけにワクワクしていたのを覚えている。もちろん長野県に行く目的は道祖神祭りについて現地の祭りを取り仕切っている方に聞きに行く！ という大義名分があるのだからワクワクばかりもしていられない。だがしかし、やはり友達と電車に乗り自分たちの住んでいる世界から少し離れた場所

へ行き、しかも旅館に泊まるというのだからワクワクしてしまうのは致し方ないだろう。

さらに何と言つても長野へ向かう途中の駅弁！ これは期待せざるを得ない!! 普段、ニュースなどのメディアで「美味しい駅弁特集」などと言つた番組を観ていると自分には関係ないかあと心の中で嘆き、チャンネルを変えていたのだが、そんな自分にもついに駅弁を食べる機会が来たのだからこんなに嬉しいことはない。駅弁なんていつでも食べられるじゃないと思う方もいるだろう。しかし、一人で行動することが苦手な更に内弁慶な私には駅弁など夢のまた夢であつたのだ。話が逸れてしまったので修正。

長野へと私たちを運んでくれるあずさ22号の中で駅弁との感動の対面、手元から離れていく1200円、ありがとうそしてサヨウナラ、そして、ようこそ北海たらば蟹弁当…ん？ 北海？ 八王子から長野県に行く電車なのに北海!! まあ、この際そこは気にしないでおく。味が良ければ全てよしという言葉もあるし(嘘)。気になる味は…うん、コンビニで安い弁当買えばよかったかなって感じです。